

English version is [here](#)

Editors:Eric Kokish
Richard Colker
翻訳:小林京子

あの人是谁？

Bd: O-I-3 DLR: S VUL: E/W WEST ♠ A 9 7 5 4 2 ♥ 8 7 6 ♦ J 6 3 ♣ 6	NORTH ♠ K 6 ♥ 10 2 ♦ 8 4 ♣ K 10 9 8 7 4 3 EAST ♠ 3 ♥ K J 4 ♦ A K Q 9 7 5 2 ♣ Q 2 SOUTH ♠ Q J 10 8 ♥ A Q 9 5 3 ♦ 10 ♣ A J 5
---	--

WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Kokish	Kimura	Colker	Cai Jian Ping
Pass	1NT	2♦	1♥
2♠	3♥	3NT	2♥
All Pass			DBL

大内杯の第1セッション。2人の男が歩いている。
 W「僕が1回パスをしてから2♠とビッドした意味がわかるかい？」
 E「点数は適当にあるけど内容の悪い長いスペードを持っているか、あるいは内容は良いけど短いスペードとダイヤモンドフィットのあるハンドのどちらかだろうね。オークションから判断するとWはハートが短そうだからダイヤモンドとクラブを何枚か持っていそうだ。僕のハンドは3NTをビッドしなければ意気地なしだと思われるからね。3NTは絶対ビッドする。」

Sから飄々とダブルがかかる。

Wのひとり言。「お世辞にもあまり良いハンドとは言えないが、それはEもわかっているはず。スペードのファーストラウンド・コントロールとダイヤモンドのフィットがあるし。ノートランプ・コントラクトで唯一心配なのはこのシングルトクラブなんだが。Sがダブルをかけるにはそれなりの理由があるだろうからリダブルとビッドした方が良くも。カナダからの飛行機の中で13時間も一緒だったが、こうしたケースの話し合いはしていないし。でもハートリードなら3NTはメイクしそうだ。逃げるのはやめるか。多少問題はありそうだがパス。テンポよくパスするぞ。」Eは少し考えていたが結局パス。

「大内」という言葉を発するよりも早く、Sはオープニング・リードをテーブルに置いている。何とクラブA！Nはエンカレッジするカードを山ほど持っているがその中から8を選ぶ。だがSはそのカードを見るそぶりもみせない。さっさとクラブJをプレイし、NのクラブKでディクレアラーのQがドロップ。Nがクラブをすべて勝ち、ハートにシフト。5ダウン、マイナス1400。

W「でも良かったよな。クラブリードの後は13トリック取られるかと思っただ。Eはあまり良かったとは思っていないらしい。面白い冗談とも受け取ってくれないようだ。このボードの主役達がテーブルを離れ、WがEにつぶやく。

「Nはパートナーに一言も言わなかったぜ。僕ならパートナーの素晴らしいリードを絶賛しまくるどころだが。Sにお願いしたらサインをくれるかしらん？」

ニューキッズ・オン・ザ・ブロック

Bd: O-I-15 DLR: S VUL: E/W WEST ♠ 10 ♥ J 9 7 3 ♦ Q J 10 9 6 ♣ 10 6 3	NORTH ♠ A K 8 7 3 2 ♥ A Q 4 2 ♦ --- ♣ Q J 8 EAST ♠ 9 5 4 ♥ 8 6 5 ♦ A K 8 2 ♣ 9 7 5 SOUTH ♠ Q J 6 ♥ K 10 ♦ 7 5 4 3 ♣ A K 4 2
---	---

TABLE ONE			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Ando	Asbi	Nomura	Sacul
Pass	1♠(2)	Pass	1NT(3)
Pass	2♣(4)	Pass	2♠
Pass	4♦(5)	Pass	5♣(6)
Pass	5♦(7)	Pass	5NT(8)
Pass	7♠	All Pass	
(1)「ポーリッシュ・クラブ」、多くはウィークNT。 (2)8+ HCP, ナチュラル; (3)12-14 HCP, バランスハンド (4)チェックバック; (5)スプリンター; (6)キュービッド; (7)ボイド、またはシングルトンA; (8)グランドスラム・フォース			
TABLE TWO			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Kokish	Watanabe	Colker	Kawaguchi
2♦	2♠	5♦	1♣
Pass	5♥	Pass	DBL
Pass	6♠(7)	All Pass	5♠

インドネシア・チームはロードス島オリンピックで銀メダルを獲得した後、2組のパートナーシップの組み合わせを変更した。新ペアの1組は今大会に出場しているサクールと若きアスピ。デニーの元パートナーであるカーウールはロードス島でワチュリンガスと組んだバネレウエンと組むことになった。

サクールとアスピはポーリッシュ・クラブ・システムのバリエーションを採用、いとも簡単にこのレイダウンのグランドスラムをビッドした。アスピがスラムへの関心を示し、ダイヤモンドがノールーザーであるとキュービッドした時点で、サクールは自分の持っているカードがすべて役立つことがわかり、トランプをチェックしてセブントライをした。ハンドを見れば何も変哲もないグランドスラムだが、グランドスラムをビッドできなかったペアが多かった。一方のテーブルに座っていた渡辺・川口ペアもそうである。

EWの介入がNSのグランドスラムを阻止したと言えれば話は面白いもの、実際はそうではない。Sはもっと積極的にオークションに取り組むべきだった。ペナルティ・ダブルをかける前に、Nのダイヤモンドがボイドである可能性を十分に考慮すべきであり、またNの5♥に対しては5♠と無理に抑える必要はなかった。6♣に対しても7♣にレイズする十分な根拠があったはずである。

EWの妨害が効を奏しすぎたかもしれない。

透視することができたなら

Bd: O-II-1 DLR: N VUL: None WEST ♠ 3 ♥ Q 8 2 ♦ J 4 2 ♣ A K 10 5 4 2	NORTH ♠ A K J 10 ♥ K 9 5 ♦ A K Q 5 ♣ 9 8 EAST ♠ 9 8 4 ♥ A 10 7 ♦ 9 8 6 ♣ Q J 6 3 SOUTH ♠ Q 7 6 5 2 ♥ J 6 4 3 ♦ 10 7 3 ♣ 7
--	---

TABLE ONE			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Tada	Justin	Kikuchi	Jason
Pass	1♠	Pass	2♠
	4♠	All Pass	
TABLE TWO			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Kokish	Watanabe	Colker	Kawaguchi
Pass	2NT	Pass	3♥(1)
Pass	4♦(2)	Pass	4♥(3)
Pass	4♠	All Pass	
(1) トランスファー (2) アドバンス・キュービッド (3) 再トランスファー			

大内杯初日第2セッションでなかなか楽しかったハンドを1つ。

オークション経過はかなり異なるものの、双方でNの4♠のコントラクトとなった。第1テーブルではNのビッドから何の情報もなく、♣Qのリードとなった。Wはこれを♣Kでオーバーテイクし、2♦にシフト。ダミーに♦10が見えているので多少リスクを伴う。ディクレアラーは♦Aで勝ち、最後に自分のハンドに戻るようトランプを狩りあげたが、ここでダイヤモンドを試す前にクラブをラフするという間違いを犯した。しかし、ダイヤモンドをキャッシュしてから♥5をハンドからリードし、劣勢を挽回する。Eのローカードに対し、ダミーの♥3がひかれる。Wは♥8で勝ち、最善のディフェンスである♥2をリターン。ディクレアラーは、Wが4♠に対して5♣とオーバーコールをしなかったことを考慮したかは定かではないが、ハートのローカードをプレイし、ゲームをメイクした。プラス420。

第2テーブルではハケット兄弟がトランスファーを使って4♠をビッド。EWはNがダイヤモンドにバリューを持ったスペードフィットのハンドであることがわかったものの、ベストディフェンスを見つけるには至らなかった。♣Qのリードを♣Kでオーバーテイクし、クラブを続けた。Nはこれをダミーでラフ、ダイヤモンドのハイカードを1回プレイしてからトランプをダミーで終わるように3巡で狩りあげた。ハートのローカードを9に向けて10に負ける。Eは安全なダイヤモンドをリターンし、Nは(エスタブリッシュした)4枚目のダイヤモンドをダミーでラフして再びハートをプレイしたがはずれ。ハートを2トリック負けて1ダウンとなった。この失点にもかかわらず、イギリスチームは翌日の決勝戦でフライトAIに参加する資格を獲得した。

Nはダミーへのラフing・エントリーが早い段階で断たれても4♠をメイクすることが可能である。ただし神のおおげにも似たひらめきが必要だが。クラブをラフした後1トランプを2回だけ狩り、ダイヤモンドを3回プレイする。次に最後のトランプをダミーで狩りあげる。エリミネーションが完了し、ダミーとハンドにトランプが1枚ずつ残る。この状態でハートを9に向けてプレイするとEはエンドプレイとなり、ラフ・アンド・ディスクカードが、♥Kにトリックを勝たせるしかない。

クール・ケン

O-II-28 DLR: W VUL: N-S WEST ♠ 7 4 3 ♥ J 4 3 ♦ K 4 ♣ J 10 9 5 2	NORTH ♠ K 10 8 6 2 ♥ A 9 8 ♦ J 9 7 ♣ A 3 EAST ♠ Q J ♥ Q 10 5 ♦ A Q 10 8 5 3 ♣ 7 6 SOUTH ♠ A 9 5 ♥ K 7 6 2 ♦ 6 2 ♣ K Q 8 4
--	---

TABLE ONE			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
	Mizutani		Atsushi
Pass	1♠	2♦	3♦
Pass	3♠	Pass	4♠
All Pass			

大内杯第2セッション。28番ボードで水谷は沈着冷静なプレイできわどいゲームをものにした。

4♠に対し、Eは♣6のリード(2枚からはロー)。これに対し、Nはトランプを狩るタイミングが遅いとラフ、オーバーラフの危険性があることを察知した。しかし、トランプのルーザーがある場合は(その可能性が高い)、先に3枚目の♦を処理する方法を考えなくてはいけない。トランプはチャンスに賭けることを決めて♣Aを勝ち、♦9をプレイした。Eが10を勝ってクラブを続け、Nが♣Kを勝つ。2枚目のダイヤモンドをプレイするとWがKで勝ってクラブをリターン、Nが♠10でラフするとEは♠Qでオーバーラフした。ここでEはダイヤモンドを続けるべきであった。Nにゲスを迫るべきであり、おそらく間違える可能性が高い。しかしEは♥にスイッチしたのNにとっては楽な展開となった。♥Aを勝ち、トランプのローカードをプレイ。♠Jが落ちるのを見て♠A、♠8でハンドに戻る。♥Kでダミーに渡り、♣Qの下にハートをディスクカード。クラブをラフ、ダイヤモンドを♠9でラフして残すはトランプのみとなった。Wが♠7を勝つ機会はずいぶん巡ってこなかった。